

運動器 1：末梢神経障害

日時：9月16日（火） 2時限

担当者：大村 泰人（整形外科・脊椎外科）

内容：

国家試験問題演習

1. 正中神経麻痺、尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺について説明できる。
2. 絞扼性末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群）について説明できる。
3. 可動域制限を生じる、神経麻痺、関節拘縮、腱断裂の違いについて説明できる。
4. 神経伝導速度検査について説明できる。
5. 徒手筋力検査について説明できる。

キーワード：

手根管症候群、肘部管症候群、正中神経麻痺、尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、腓骨神経麻痺、関節拘縮、腱断裂、神経伝導速度検査、徒手筋力検査

教科書：

◆ 医学書院標準整形外科第14版

予習：

30分以下の項目の教科書を読む（医学書院標準整形外科第14版）末梢神経障害-単神経障害神経損傷-絞扼性神経障害 p410、手関節と手-神経麻痺 p497～499、肘関節-肘部管症候群 461～462、神経伝導速度検査 p156、徒手筋力検査 p120～122、

復習：

授業でおこなった国試問題を再度解く。

運動器 2：骨系統、代謝疾患、特発性骨壊死

日時：9月19日（金） 1時限

担当者：渡會 恵介（整形外科・脊椎外科）

内容：

骨系統、代謝疾患、特発性骨壊死の国家試験頻出分野を勉強しよう

1. 骨系統疾患
 - 1) 骨形成不全症
 - 2) 軟骨無形成症
2. 代謝性疾患
 - 1) 痛風
 - 2) 偽痛風
3. 特発性骨壊死
 - 1) 特発性大腿骨頭壊死症
 - 2) 膝の特発性骨壊死
4. 小児整形
 - 1) 発育性股関節形成不全

◆ 国試頻出の大腿骨頭すべり症やペルテス病にも触れます。

- 2) 先天性内反足
- 3) 筋性斜頸

キーワード：

★コアカリ：

- ★D-4-1-5 骨盤の構成と性差を説明できる。 ★D-4-1-6 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
- ★D-4-2-1 筋骨格系の病態に即した徒手検査（四肢・脊柱の可動域検査、神経学的検査等）を説明できる。
- ★D-4-2-2 筋骨格系画像診断（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影＜CT＞、磁気共鳴画像法＜MRI＞）

＞、超音波検査、骨塩定量）の適応を概説できる。 ★D-4-4-1-2 関節の脱臼、靱帯損傷の定義、重症度分類、診断と治療を説明できる。

国試出題基準：

低身長（四肢短縮型、体幹短縮型）骨形成不全症 軟骨無形成症 痛風 偽痛風 膝の特発性骨壊死 特発性大腿骨頭壊死症 発育性股関節形成不全、先天性股関節脱臼、リーメンビューゲル、Perthes 病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎、乳児化膿性股関節炎、先天性内反足

教科書：

◆ 標準整形外科第 15 版（医学書院）p295-347、p534-535、p608-p612、p624-p640、p699-p700、p718-p719、

予習：

（20 分）当該分野の 4 年生の講義資料を見直して、望んでください。

復習：

（20 分）講義資料を見直してください。

運動器 3：脊椎疾患、頸肩腕症候群

日時：9 月 29 日（月） 1 時限

担当者：鳥尾 哲矢（整形外科・脊椎外科）

内容：

問題解説方式

●脊椎の重篤な疾患と頸肩腕部のしびれや痛みを生じる疾患の診断と治療のポイントについて、臨床問題を例にして解説。 ●知覚障害や筋力障害から神経障害レベルをどのように診断するか

1. 腰背部痛をきたす疾患を列挙し、診断と治療が説明できる
 - ◆ 内臓由来の疾患：腎尿路生殖器系、消化器系、呼吸器系
 - ◆ 血管由来の疾患
 - ◆ 脊椎、神経由来の疾患
2. 脊椎の骨折（骨粗鬆症性圧迫骨折、脊髄損傷など）の診断と治療が説明できる
3. 脊椎の感染性疾患（化膿性脊椎炎、脊椎カリエス）の診断と治療が説明できる
4. 脊椎の腫瘍性疾患（骨髄腫、転移性脊椎腫瘍など）の診断と治療が説明できる
5. 脊椎の炎症性疾患（リウマチ性頸椎病変など）の診断と治療が説明できる
6. 頸肩腕症候群、胸郭出口症候群の診断と治療が説明できる

キーワード：

重篤な腰痛の鑑別点、不明熱、がん転移、Wright テスト、Spurling test、環軸椎脱臼、頸髄損傷 デルマトーム、病的反射、脊髄、馬尾、神経根、末梢神経

教科書：

◆ プリント
◆ 標準整形外科（p505-516, p522-533, p589-589）

備考：

準備の項の復習

準備：

- ◆ 解剖学の復習
 1. 脊椎解剖 椎骨の数（p506 図 30-1）
 2. 腰痛の原危険信号と因別分類（p555 図 32-1, 32-2）
 3. 脊椎と脊髄の高位差（p509 図 30-5）
 4. 神経支配領域の指標（p512 図 30-10）（p557 図 32-33）
 5. 転移性脊椎腫瘍（p578 図 32-60, 32-61）

コアカリ： F1-35 腰背部痛、 G-2-35 腰背部痛

運動器 4：上肢の運動器疾患

日時：9月30日（火） 1時限

担当者：上原 浩介（整形外科・脊椎外科）

内容：

1. 肩関節疾患
 - 1) 肩関節周囲炎
 - 2) 腱板損傷
 - 3) 肩関節脱臼 - 外傷性、反復性
 - 4) 上腕骨外科頸骨折、鎖骨骨折
2. 肘関節疾患
 - 1) 上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆
 - 2) 内反肘、外反肘
 - 3) 肘内障
 - 4) 野球肘、離断性骨軟骨炎
3. 前腕の骨折 - Monteggia 骨折、Colles 骨折
4. 手指の疾患
 - 1) 槌指（伸筋腱損傷）
 - 2) 屈筋腱損傷
 - 3) ばね指、de Quervain 病
 - 4) Heberden 結節
 - 5) ガングリオン
 - 6) Dupuytren 拘縮

キーワード：

腱板（肩甲下筋、棘下筋、棘上筋、小円筋）、drop arm test、小児の骨折、Volkmann 拘縮、フォーク状変形、no man's land、DIP 関節、ゼリー状内容物

教科書：

◆ プリント、標準整形外科学 14 版（医学書院）

備考：

発展課題：高齢者に多い骨折、小児に多い肘関節骨折、肘のスポーツ障害

準備：

1. 肩関節周囲炎（五十肩）と腱板損傷の臨床所見と画像所見 P442～446
2. 小児肘関節外傷（上腕骨顆上骨折、外顆骨折、内側上顆骨折）の部位、画像所見および合併症 P829～832
3. 肘内障の臨床像と治療法 P456～457
4. 野球肘（離断性骨軟骨炎）の臨床像、画像所見、治療 P457～458

標準整形外科学（第 14 版） おおよそ 30 分

運動器 5：下肢の運動器疾患

日時：9月30日（火） 2時限

担当者：杉田 直樹（整形外科・脊椎外科）

内容：

1. 股関節疾患
 - 1) 外傷性股関節脱臼
 - 2) 大腿骨近位部（頸部・転子部）骨折
 - 3) 大腿骨頭壊死症
2. 膝関節疾患
 - 1) 変形性膝関節症

- 2) 特発性骨壊死症
 - 3) 半月板損傷
 - 4) 前十字靱帯損傷
 - 5) Osgood-Schlatter 病
3. 下腿・足部疾患
- 1) 前脛骨筋症候群・前脛骨区画症候群
 - 2) アキレス腱断裂
 - 3) 疲労骨折

キーワード：

高齢者の骨折、大腿骨近位部骨折、McMurray テスト、Lachman テスト、前方引き出しテスト、スポーツ障害、筋(組織)区画内圧、Thompson テスト

教科書：

◆ プリント、標準整形外科学 15 版（医学書院）

備考：

発展課題：変形性膝関節症の病期や年齢による手術方法の選択について。スポーツによる障害はどのようなものがあるか。

準備：

1. 大腿骨近位部骨折（頸部・転子部骨折）の画像所見および手術方法と合併症 P825～828
2. 変形性膝関節症と特発性骨壊死の臨床像、画像所見および治療法 P692～700
3. 前十字靱帯損傷および半月損傷の臨床像と画像所見 P682～687
4. 前脛骨区画症候群の病態、症状および治療 p788、789

標準整形外科学 （第 15 版） おおよそ 40 分